

差動式分布型感知器取扱説明書

・接 続 方 法

L, C : 受信機からの信号線 (L, C)

D + : 熱電対線+側

D - : 熱電対線-側

熱電対線の極性を間違えますと、火災時に感知器が動作しませんので、極性には特に注意して下さい。

・正 常 状 態

正常状態にあるときは、感知器端子 L - C 間には、受信機の受信回路を通じて回路電圧 D C 2 4 V が印加されており、火災発生時熱電対部が電圧を発生して、検出器が動作した時、何時でも受信機の受信回路を動作させられる状態となっております。

・試 験 方 法

動作試験

1. テストジャックを検出器のプラグ部分に差込みます。
2. 切替スイッチを m V 側にします。
3. 測定用押釦スイッチ（測定）を押しながら電圧調整つまみを時計方向にゆるやかに廻し、検出器が動作した点の計器の m V 目盛りで読みます。目盛りの値が 2.09m V ~ 2.95m V の範囲内であれば正常です。

導体抵抗

1. 切替スイッチを Ω 側に切替えます。
2. 無限大調整スイッチ (∞ A D J) を押しながら電圧調整つまみを時計方向に廻し、計器の指針を無限大 (∞) の位置に合えます。
3. 測定用スイッチ（測定）を押し計器の Ω 目盛りで抵抗値を読みます。
4. 抵抗値は 9Ω 以下であれば正常です。

・試験器の取扱注意事項

1. 電圧調整つまみが赤目盛りの範囲内にあり、検出器に接続していない状態のときは、測定用押釦（赤色）を押す事は避けて下さい。
2. 抵抗測定の時、指針が無限大 (∞) まで振れないときは、内部電池 (UM-3型) が消耗していますので、新品と交換して下さい。
3. 取扱には、衝撃及び振動を与えないよう、十分注意して下さい。

型 式	種 別	型式承認番号	動作設定電圧	熱電対回路最大抵抗	絶 縁 抵 抗
NSD302	3種	感第7~61~1号	2.52mV	9Ω 以下	熱電対ーアース間 $0.1M\Omega$ 以上